

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2020/21 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・ブラジル等で上方修正も、EU、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

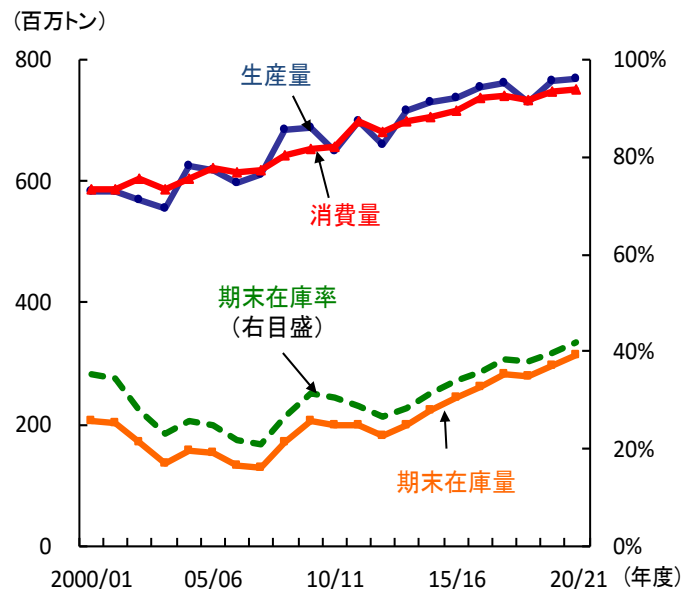
消費量 前年度比 前月比

- ・トルコ等で上方修正も、EU、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

- ・豪州で上方修正も、EU 等で下方修正され、前月からわずかに下方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「FAS&D」(2020.7.10)をもとに農林水産省で作成

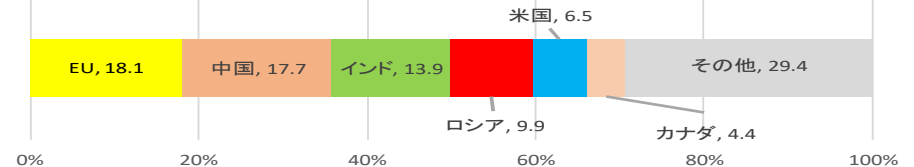
◎世界の小麦需給

(単位：百万トン)

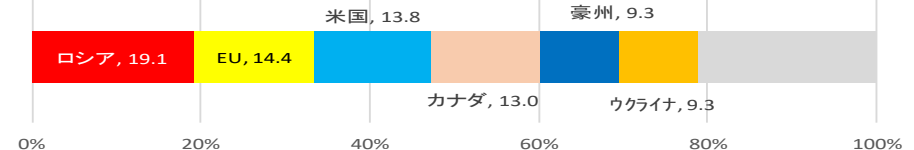
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	730.9	764.8	769.3	▲ 4.1	0.6
消費量	735.2	747.5	751.6	▲ 1.6	0.5
うち飼料用	139.5	140.2	135.1	▲ 1.4	▲ 3.7
輸出量	173.6	188.1	188.0	▲ 0.8	▲ 0.0
輸入量	170.7	183.3	183.3	▲ 0.2	-
期末在庫量	279.8	297.1	314.8	▲ 1.3	6.0
期末在庫率	38.1%	39.7%	41.9%	▲ 0.1	2.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 July 2020)

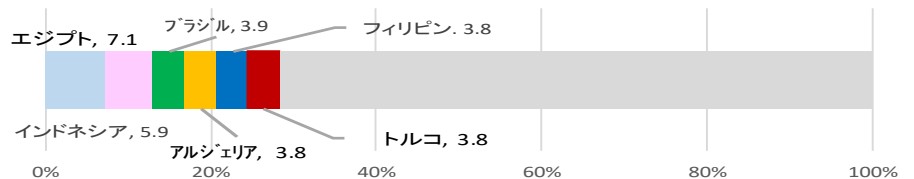
○ 2020/21年度の世界の小麦の生産量(769.3百万トン)(単位：%)



○ 2020/21年度の世界の小麦の輸出量(188.0百万トン)



○ 2020/21年度の世界の小麦の輸入量(183.3百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2020/21 年度の生産量は、前月予測に比べ 1.5 百万トン下方修正され、49.6 百万トンと、前年度を 5.0% 下回る見込み。

そのうち、冬小麦は、収穫面積の減少と単収の低下により、前月より 1.3 百万トン下方修正され、33.1 百万トンと前年度(35.5 百万トン)を 6.6% 下回る見込み。

また、春小麦は、収穫面積が増加するものの、単収が低下することから前年度の 15.3 百万トンを 2.2% 下回る 15.0 百万トンの見込み。デュラム小麦の生産量は、単収が低下するものの、収穫面積が増加することから前年度の 1.46 百万トンを 3.4% 上回る 1.52 百万トンとなる見込み。

USDA「Crop Progress」(2020.7.20)によれば、7月19日時点の主要18州の冬小麦の収穫進捗率は、74%と前年度同期の66%を上回っているものの、過去5年平均(75%)を下回っている。

また、同時点の主要6州の春小麦は、出穂がほぼ終了。出穂進捗率は91%と、前年度同期の88%を上回るものの、過去5年平均(94%)を下回っている。作柄評価は良～やや良が68%と前週からの変更はなく、前年度同期の76%を下回っている。

【貿易情報・その他】飼料用需要は、相対的に価格の低いとうもろこしへ需要がシフトするとみられるため、前月に比べ0.3百万トン下方修正され、2.5百万トンの見込み。

6月の輸出価格は、米国農務省の需給報告後、世界の潤沢な小麦供給量や米国産冬小麦の収穫の進展から低下傾向となったが、EUとロシアの減産見込みから7月上旬に入り上昇した。2020年(2020.1～2020.7.2)の輸出先国別輸出数量は、フィリピンが最も多く168.8万トンで、メキシコが155.2万トン、日本が131.0万トンの順。

日本向けの輸出量は、新型コロナウイルス感染拡大もある中、前年同期と同様に順調に推移している。

小麦－米国（冬小麦が全体の7割、春小麦は3割）

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	51.3	52.3	49.6	▲ 1.5	▲ 5.0
消 費 量	30.0	29.8	30.4	▲ 0.3	1.8
うち飼料用	2.4	2.0	2.5	▲ 0.3	22.5
輸 出 量	25.5	26.3	25.9	－	▲ 1.6
輸 入 量	3.7	2.9	3.8	－	33.2
期末在庫量	29.4	28.4	25.7	0.5	▲ 9.7
期末在庫率	53.0%	50.6%	45.6%	1.1	▲ 5.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.03	15.04	14.84	▲ 0.40	▲ 1.3
単収(t/ha)	3.20	3.47	3.34	▲ 0.01	▲ 3.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(10 July 2020)

表 米国の小麦輸出先国別輸出量(輸出検証高)

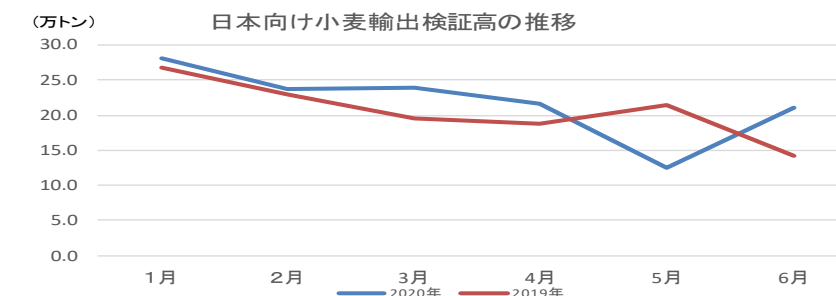
(万トン)

国名	6月 輸出検証高	シェア(%)	2020年 累積輸出検証高	シェア(%)
フィリピン	32.1	15.4	168.8	13.0
メキシコ	23.9	11.4	155.2	12.4
日本	21.1	10.1	131.0	10.5
インドネシア	12.4	5.9	73.7	6.3
イエメン	12.4	5.9	40.4	5.6
その他	56.4	51.3	425.6	52.1
合計	209.2	100.0	1,266.8	100.0

注1. 6月の輸出検証高は、6月11、18、28日及び7月2日の合計値。

注2. 累積輸出検証高は、2020年1月2日～7月2日の合計。

資料: USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals(2020年7月6日)より作成。



< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)7月報告「Outlook for Principal Field Crops」(2020.7.17)によれば、2020/21年度の生産量は、前月予測から0.3百万トン下方修正され33.6百万トンの見込み。このうち、デュラム小麦は前月予測から0.5百万トン上方修正され6.0百万トン、普通小麦は前月予測から0.8百万トン下方修正され27.6百万トン(冬小麦2.7百万トン、春小麦24.9百万トン)。

USDAによれば、7月上旬は、全体的には大平原の春作物にとっては概ね良好な天候であった。

カナダの各地方政府によれば、サスカチュワン州では、温暖な天候と降雨により、春作物の7月中旬の作柄評価(良～やや良の割合)は、春小麦86%、デュラム小麦78%、冬小麦74%となっている。アルバータ州では、2週間を超える降雨で多くの地域で土壌水分が過多となったものの、7月中旬の作柄評価(良～やや良の割合)は、春小麦80.3%、デュラム小麦89.1%、冬小麦85.9%。マニトバ州では、2週間を超える降雨で倒伏した作物を除き、作柄は概ね平均から良好な状況にある。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、輸出量は前月予測からの変更はなく、24.1百万トンの見込み。そのうち、デュラム小麦は前月予測から0.2百万トン上方修正され5.1百万トン、普通小麦は前月予測から0.2百万トン下方修正され19.0百万トンの見込み。USDAによれば、6月末のカナディアン・ウエスタン・レッド・スプリング

(CWRS)の輸出価格は、世界の供給量が潤沢であることや世界で冬小麦の収穫が開始されたこと等から5月末の238ドル/トンから228ドル/トンに下落した。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2019/20年度(2019年8月～2020年5月)の輸出量累計は5月末現在、普通小麦が1,410.6万トンで、国別にはインドネシアが175.2万トン、日本が149.7万トンの順。デュラム小麦は、428.2万トンで、国別にはトルコが97.9万トン、イタリアが87.8万トンの順。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.2	32.4	34.0 (33.6)	-	5.1
消費量	9.0	10.4	9.8 (9.2)	-	▲ 5.8
うち飼料用	4.0	5.3	4.6 (4.6)	-	▲ 13.2
輸 出 量	24.4	23.2	24.5 (24.1)	-	5.6
輸 入 量	0.5	0.7	0.5 (0.2)	-	▲ 33.8
期末在庫量	6.0	5.5	5.6 (6.4)	▲ 0.1	2.7
期末在庫率	18.1%	16.3%	16.4% (19.2%)	▲ 0.2	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.88	9.66	9.80 (9.90)	-	1.4
単収(t/ha)	3.26	3.35	3.47 (3.39)	-	3.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 July 2020)

AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(17 July 2020)

表 カナダの小麦輸出相手国(輸出検証高、シェア)
(普通小麦)

	2020年5月			2019年8月～2020年5月		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	インドネシア	37.0	24.3	インドネシア	175.2	11.8
2	中国	34.6	22.7	日本	149.7	11.7
3	ペルー	23.1	15.2	コロンビア	106.2	8.0
4	コロンビア	12.6	8.3	中国	102.8	6.7
5	日本	12.2	8.0	ペルー	102.1	5.8
6	その他	118.9	78.2	その他	774.6	66.1
計		238.2	156.8	計	1410.6	120.3

(デュラム小麦)

	2020年5月			2019年8月～2020年5月		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	イタリア	14.5	9.5	トルコ	97.9	11.8
2	モロッコ	10.4	6.8	イタリア	87.8	11.7
3	アルジェリア	8.8	5.8	モロッコ	74.0	8.0
4	トルコ	3.1	2.1	アルジェリア	33.3	6.7
5	チュニジア	12.2	8.0	米国	30.3	5.8
6	その他	2.7	1.8	その他	104.9	9.0
計		51.1	33.6	計	428.2	36.5

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。

注2 普通小麦の品種はNO.1-3 Canada Western Red Spring No.1 Canada Western Red Winter

No.2 Canada Eastern Red Spring No.2 Canada Eastern Oter.デュラムはCanada Western Amber Durum Others

注3: 累計輸出検証高は2019年8月～2020年4月までの累計

資料: Canadian Grain Commission 「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」をもとに作成。

<豪州>

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、26.0百万トンの見込み。一方、豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Crop Report」(2020.6.9)によれば、生産量は前年度に比べ76%増加し、26.7百万トンとなる見込み(前回2020年3月レポートの予測は21.4百万トン)。

主要生産州の生産量は、ウェスタンオーストラリア州(WA)で8.6百万トン(5年平均は8.3百万トン)、ニューサウスウェールズ州(NSW)で8.3百万トン(5年平均は5.1百万トン)の見込み。

6月は、小麦生産地の大部分で平年を下回る降水量となったため、作物の生育が遅れた一方で、南東部の平均降水量に近い降雨のあった地域では良好な単収が見込まれている。大部分の小麦生産地の生育や東部の厳しい干ばつが回復するためには、更なる降雨が必要である。なお、WA州では7月中旬に降雨があり土壌水分が回復した。

【貿易情報・その他】USDAによれば、6月末の豪州の輸出価格は、豊作が期待されることから5月末の278ドル/トンから225ドル/トンに急落した。

2020/21年度の輸出量は、価格競争力の高まりにより、EUの一部の輸出市場を奪うと見られ、前月予測から0.5百万トン上方修正され、17.5百万トンの見込み。

現地情報会社によると、5月の小麦輸出量は76.7万トンで前月の86.0万トンから減少した。輸出先国は、23.2万トンと中国が約3割を占め、以下、韓国とベトナムがそれぞれ9.2万トン、9.0万トンの順。

豪州政府によれば、2020年7月5日に豪州・インドネシア包括経済連携協定が発効した。この協定により、インドネシアは協定の1年目に飼料用小麦を含む豪州産飼料穀物50万トンの関税を撤廃し、その後、非関税枠を年間5%ずつ拡大する。

豪州はインドネシアに年間平均400万トンの小麦を輸出してきたが、2018/19年度からは干ばつによる生産量の減少により、ウクライナ、カナダに市場を奪われていた。

この協定により豪州産小麦は、インドネシア市場で競争力を増す見込み。

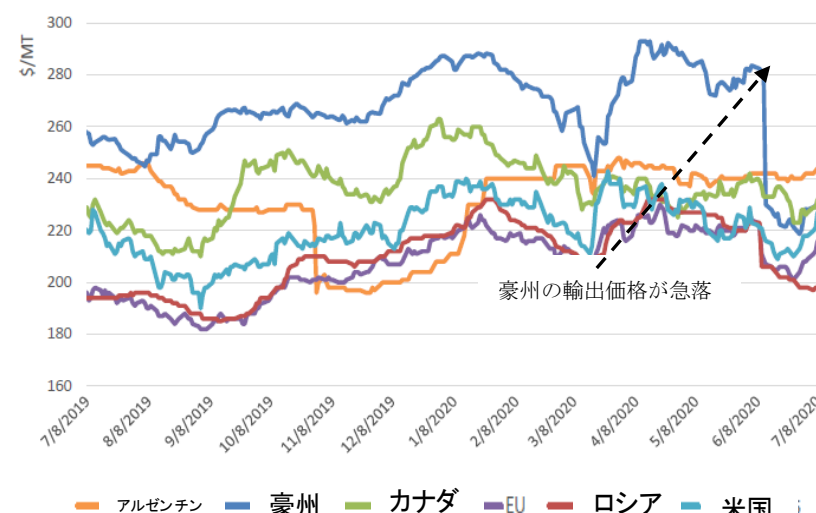
小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	17.6	15.2	26.0	(26.2)	-	71.1
消費量	9.2	8.4	7.1	(7.4)	-	▲16.1
うち飼料用	5.7	4.9	3.5	(3.7)	-	▲28.6
輸出量	9.0	9.2	17.5	(16.7)	0.5	90.2
輸入量	0.5	0.5	0.2	(0.2)	-	▲60.0
期末在庫量	5.4	3.5	5.2	(5.9)	▲0.5	46.6
期末在庫率	29.9%	20.1%	21.1%	(24.4%)	▲2.5	1.0
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	10.40	10.20	13.00	(13.0)	-	27.5
単収(t/ha)	1.69	1.49	2.00	(2.02)	-	34.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 July 2020)
IGC 「Grain Market Report」(25 June 2020)

図 小麦主要輸出国の輸出価格の推移



資料: USDA「Grain :World Markets and Trade」(2020.7.10)

< EU > (英国を含む)

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測に比べ、単収の下方修正から1.5百万トン下方修正され、139.5百万トンとなる見込み。

2020/21年度は、昨秋に降雨過多により播種が例年通りにできなかったことや春に欧州大陸の大半で厳しい干ばつに見舞われた。

フランスでは、6月に降雨があったものの、春から初夏にかけての土壌水分不足の影響を改善するには遅く、単収に影響を与えた。また、スペインでは、生育初期には生育状況が良好で豊作が見込まれたものの、生育後期の乾燥天候が影響を与えた。

EU委員会「Crop Development Stage」(2020.7.13)によれば、生育段階は、欧州全体で平年より進んでおり、特にイベリア半島北部、フランス、ドイツ北部、英国の生育が早い。スペイン、フランス南西部、ルーマニア東部で糊熟期(maturity)、フランス中部及び北部で完熟期(ripening)を迎えている。

フランスアグリメールによれば、7月6日現在、フランスでの普通小麦の作柄評価の「良～とても良い」の割合は、前月より1%減少し55%と、前年度の73%を下回っている。また、デュラム小麦の「良～とても良い」の割合は前月より1%減少して62%と、前年度の71%を下回っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、飼料用需要は前月から1.0百万トン下方修正され48.5百万トンの見込み。EU委員会によれば、飼料用需要の下方修正の要因はとうもろこし価格の相対的な低下である。

2020/21年度の輸出量は、生産量の減少見込みから、前月予測から1.0百万トン下方修正され、27.0百万トンとなる一方、2019/20年度の輸出量は、十分な輸出余力と価格競争力があり輸出ペースが早いことから、前月より1.5百万トン上方修正され、38.0百万トンとなる見込み。

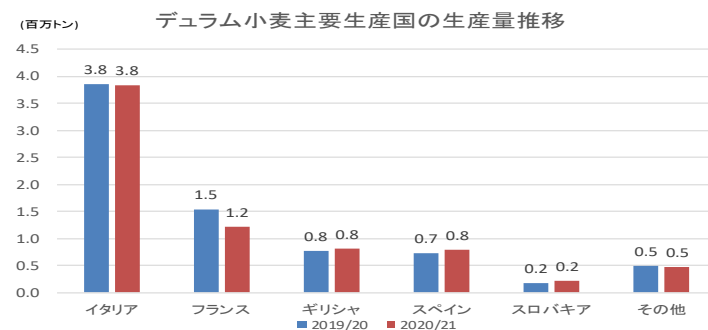
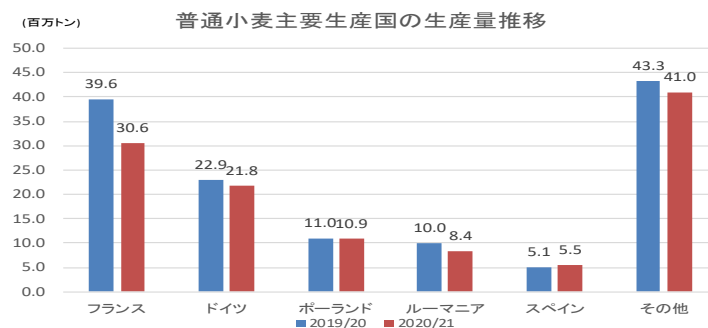
なお、輸出価格は、EU内の一部の引き続き乾燥による作柄悪化懸念にもかかわらず、価格は5月末の221ドル/トンから6月末には208ドル/トンに下落した。

小麦—EU (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	136.7	154.9	139.5 (124.5)	▲ 1.5	▲ 10.0
消費量	121.1	122.0	118.3 (106.6)	▲ 1.0	▲ 3.0
うち飼料用	51.5	52.0	48.5 (42.4)	▲ 1.0	▲ 6.7
輸 出 量	23.3	38.0	27.0 (26.3)	▲ 1.0	▲ 28.9
輸 入 量	5.8	4.9	5.5 (6.4)	-	12.2
期末在庫量	12.0	11.8	11.5 (7.9)	▲ 0.0	▲ 2.5
期末在庫率	8.3%	7.4%	7.9% (5.9%)	0.1	0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	25.52	26.14	25.25 (23.56)	-	▲ 3.4
単収(t/ha)	5.36	5.93	5.52 (5.28)	▲ 0.06	▲ 6.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」 (10 July 2020) 表内のデータはEU27+英国
EU 「Balance Sheets For Cereals」 (25 June 2020)、()内のデータはEU27ヶ国



資料: 欧州委員会 EU Crop Market Observatory(2020.6.25)をもとに農林水産省で作成

< 中国 >

【生育・生産状況】中国農業農村部によれば、6月17日現在、冬小麦の収穫が進んでおり、収穫面積は20.0百万ヘクタール、収穫進捗率は97%に達している。

国家糧油情報センターによれば、本年度は、①平均単収の増加、②穀粒が充実し容積重も十分であるため、国家標準の1等、2等の比率の大幅な増加、③餃子用やケーキ用に特化した品種の比率の増加等が見込まれている。

中国気象台によれば、7月1日現在までの春小麦の生育状況は、黒竜江省、内モンゴル東部、甘粛省、新疆地区で、開花期から乳熟期に入っている。

中国糧油情報センターによれば、2020/21年度の小麦の生産量は、前月予測からの変更はなく、134.0百万トンの見込み。種類別の内訳は、冬小麦、春小麦とも前月予測からの変更はなく、それぞれ126.6百万トン、7.4百万トンの見込み。

なお、小麦の収穫がすでに終了していたため、6月以降の長江流域での洪水による被害はなかったと見られている。

【貿易情報・その他】中国糧油情報センターによれば、国内のとうもろこし価格が高水準を維持する一方、小麦価格は相対的に安価で飼料用需要がとうもろこしから小麦にシフトすることから、2020/21年度の消費量は、前月予測に比べ、0.5百万トン上方修正され、124.8百万トンとなる見込み。

中国農産品供需形勢分析月報(6月)によれば、国内卸売価格は、国家備蓄も十分な上に、品質も良く豊作である新穀が大量に市場に出回り始めたことから、普通小麦、高品質小麦ともに低下した。

2020年1月から5月の小麦の輸入量計は、前年同期に比べ1.7倍の230.9万トン。その内訳は、2019年はカナダが71.3%を占めていたが、2020年はカナダが15.5%に減少し、フランスが33.5%、豪州が31.3%と増加し、両国で64.8%を占めている。

小麦—中国（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	131.4	133.6	136.0 (135.0)	-	1.8
消費量	125.0	126.0	130.0 (131.2)	-	3.2
うち飼料用	20.0	19.0	20.0 (21.0)	-	5.3
輸 出 量	1.0	1.0	1.0 (1.2)	-	-
輸 入 量	3.2	4.8	6.0 (4.7)	-	25.0
期末在庫量	139.8	151.2	162.2 (136.5)	0.3	7.3
期末在庫率	110.9%	119.0%	123.8% (103.1%)	0.2	4.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	24.27	23.73	24.00 (23.8)	-	1.1
単収(t/ha)	5.42	5.63	5.67 (5.68)	-	0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(10 July 2020)

IGC 「Grain Market Report」(25 June 2020)

表 中国の小麦輸入量、輸入先国シェア

	2019年1月～2019年5月			2020年1月～2020年5月		
	国名	輸入量 (万トン)	輸入量シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	輸入量シェア (%)
1	カナダ	95.9	71.3	フランス	77.4	33.5
2	カザフスタン	16.7	12.4	豪州	72.3	31.3
3	フランス	13.1	9.7	カナダ	35.8	15.5
4	米国	4.2	3.1	リトアニア	19.7	8.5
5	豪州	2.8	2.1	米国	13.2	5.7
6	その他	1.8	1.4	その他	12.6	5.4
計		134.5	100.0	計	230.9	100.0

出典: 中国海関統計(2020.6.25)をもとに農林水産省で作成

< ロシア >

【生育・生産状況】ロシア気象センターによれば、6月、ロシア・ヨーロッパ部(※)の北部で冬小麦は開花期から乳熟期、一部の早植えの収穫が開始。作柄は、一部で高温・乾燥、強風の影響があったものの、概ね良好。南部で冬小麦は高温と乾燥で登熟が進み一部で収穫が進展、春小麦は出穂期から黄熟期を迎えた。なお、冬、春小麦とも主産地のロストフ、スタボロポリ地方の一部で干害が生じた。

ロシア・アジア部(※)の西部で冬小麦は概ね乳熟期、春小麦は出穂期を迎えたものの、一部で深刻な干害が発生した。東部の極東連邦管区では春小麦が概ね茎立ち期に入っている。

また、ロシア農業省によれば、冬小麦の収穫進捗率はロシア全体で13.1%。主要産地であるロシア南部の北カフカス連邦管区で58.0%、南連邦管区で39.8%となった。

パトルシェフ農相によれば、2020/21年度の穀物全体の生産量は122.5百万トン、そのうち、小麦は75.0百万トンとなる見込み。今年度は一部地域で干ばつの影響があるものの、主産地の黒土地帯等は順調であると発言。また、穀物生産量が近年、120百万トンを超えた要因を品種改良や農業技術の改善によるとした。一方、USDAによれば、2020/21年度の見込みは、前月予測から0.5百万トン下方修正され、76.5百万トンの見込み。内訳は、冬小麦が前月から1.0百万トン下方修正され56.0百万トン、春小麦は0.5百万トン上方修正され20.5百万トン。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は前月からの変更はなく、36.0百万トンの見込み。ロシアは、生産量予測が減少したものの、EUの生産減に伴う輸出量の減少により、市場を確保すると見られている。

ロシアの2019/20年度(2019.7~2020.5)の輸出量は3,267万トンで、その内訳は、トルコ23.9%、エジプト18.6%、バングラデシュ6.8%である。

なお、パトルシェフ農相は7月上旬、今のところ輸出枠を設定していないものの、国内供給の確保のため、今後穀物輸出に輸出枠設定を検討する意向を明らかにした。

小麦—ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	71.7	73.6	76.5	(79.0)	▲ 0.5	3.9
消費量	40.5	40.0	40.5	(41.5)	-	1.3
うち飼料用	18.0	17.0	17.5	(18.5)	-	2.9
輸 出 量	35.8	34.5	36.0	(36.1)	-	4.3
輸 入 量	0.5	0.4	0.5	(0.3)	-	42.9
期末在庫量	7.8	7.3	7.8	(10.8)	▲ 1.5	6.9
期末在庫率	10.2%	9.8%	10.2%	(13.9%)	▲ 2.0	0.4

(参考)

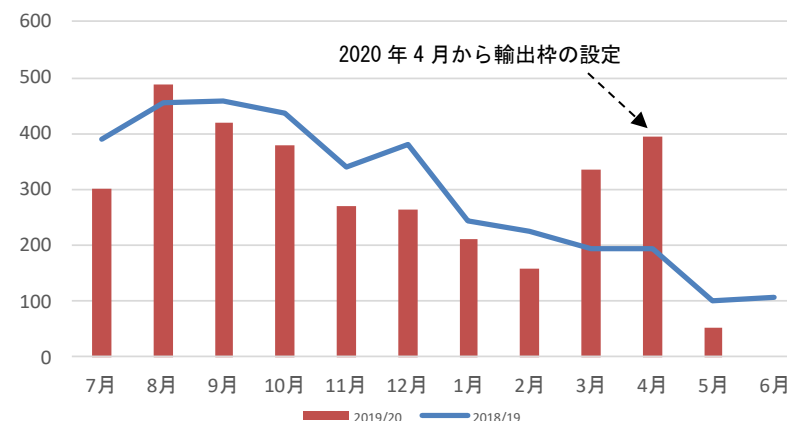
収穫面積(百万ha)	26.34	27.31	27.70	(…)	0.20	1.4
単収(t/ha)	2.72	2.70	2.76	(…)	▲ 0.04	2.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(10 July 2020)

IGC 「Grain Market Report」(25 June 2020)

ロシアの小麦輸出量の推移 (2019/20,2018/19)



資料: 税関統計をもとに農林水産省で作成、ユーラシア経済同盟加盟国への輸出も含む(2020.7.9)

※ ロシア・ヨーロッパ部: 中央、北西、沿ボルガ、南、北カフカス連邦管区

ロシア・アジア部: ウラル、シベリア、極東連邦管区

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- ・米国、カナダ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

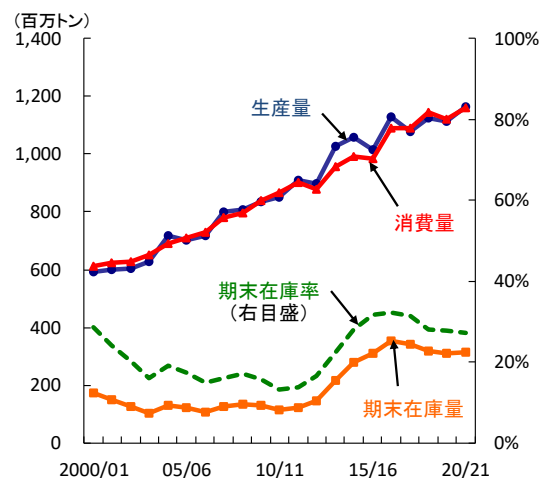
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- ・中国等で上方修正も、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- ・ミャンマーで上方修正も、EUで下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2020. 7. 10）をもとに農林水産省にて作成

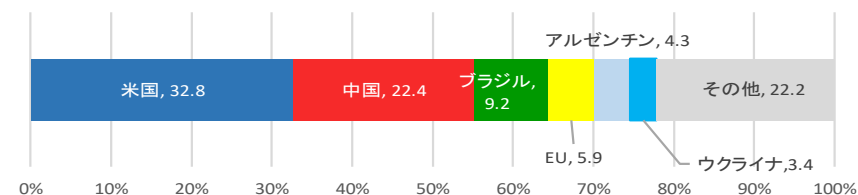
◎世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

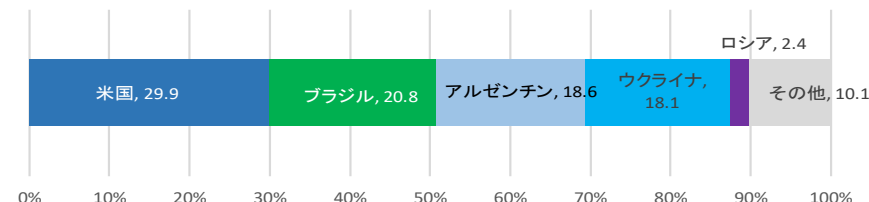
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,123.3	1,113.6	1,163.2	▲ 25.3	4.5
消 費 量	1,144.4	1,121.7	1,160.1	▲ 3.4	3.4
うち飼料用	703.0	706.6	727.5	▲ 2.9	3.0
輸 出 量	181.1	171.2	182.5	▲ 0.1	6.6
輸 入 量	162.9	169.2	176.9	0.3	4.5
期末在庫量	320.1	312.0	315.0	▲ 22.8	1.0
期末在庫率	28.0%	27.8%	27.2%	▲ 1.9	▲ 0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 July 2020)

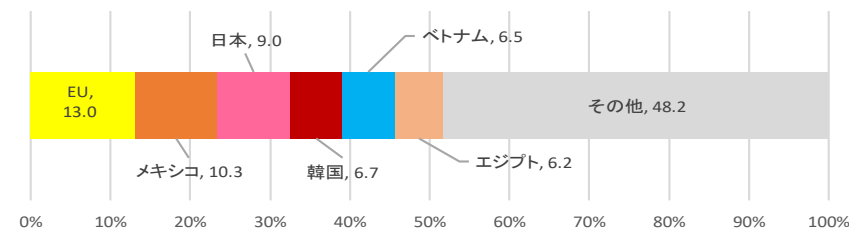
○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,163.2百万トン)(単位:%)



○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの輸出量(182.5百万トン)



○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの輸入量(176.9百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2020/21年度の生産量は、「作付面積調査」(2020.6.30)による収穫面積の下方修正に伴い、前月予測から25.3百万トン下方修正されたものの、前年度より10.2%増の381.0百万トンの見込み。「Crop Progress」(2020.7.20)によれば、天候におおむね恵まれたことから、7月19日現在でシルキング率は主要18州において59%と、前年度同期(30%)及び過去5年平均(54%)より進んでいる。ドウ率は9%と、前年度同期(4%)及び過去5年平均(7%)より進んでいる。作柄評価は、良からやや良が69%と前年度同期(57%)を上回っている。

【需要動向】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測から4.4百万トン下方修正されたものの、前年度の新型コロナウイルスの感染拡大による需要落ち込みの反動から飼料用需要及びエタノール用需要ともに増加し、前年度より5.2%増の316.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、国際貿易の回復と高い価格競争力のため、前年度より21.1%増の54.6百万トンの見込み。なお、輸出検証高(2020年1月2日～7月2日)は、25.7百万トンであり、内訳はメキシコ(7.4百万トン)、日本(6.4百万トン)の順である。

とうもろこしー米国

(単位:百万トン)

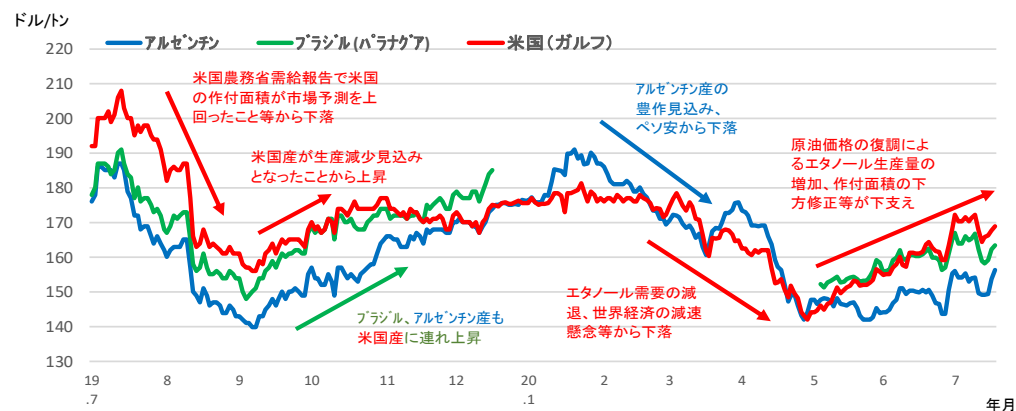
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	364.3	345.9	381.0	▲ 25.3	10.2
消費量	310.5	301.3	316.9	▲ 4.4	5.2
うち飼料用	137.9	142.3	148.6	▲ 5.1	4.5
エタノール用等	136.6	123.2	132.1	-	7.2
輸 出 量	52.5	45.1	54.6	-	21.1
輸 入 量	0.7	1.1	0.6	-	▲ 43.9
期末在庫量	56.4	57.1	67.3	▲ 17.2	17.8
期末在庫率	15.5%	16.5%	18.1%	▲ 4.3	1.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	32.89	32.91	34.00	▲ 2.26	3.3
単収(t/ha)	11.07	10.51	11.21	0.01	6.7

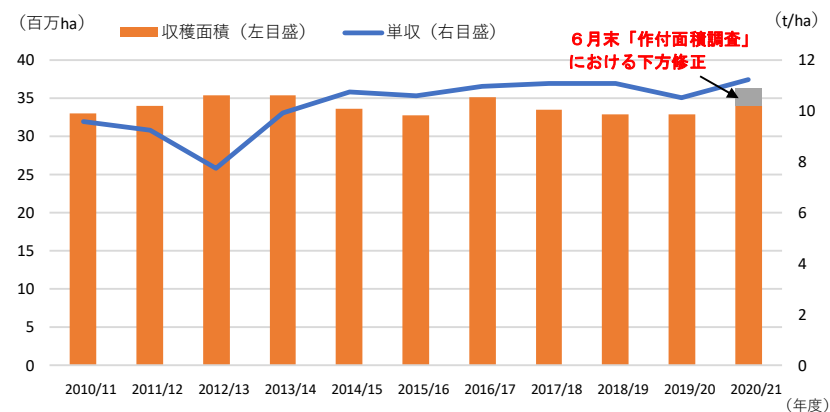
資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 July 2020)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



資料: IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

図：米国産とうもろこしの過去10年間との単収・収穫面積の比較



資料: USDA「PS&D」(2020.7.10)をもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より5.9%増の107.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(Conab)月例報告(2020.7.8)によれば、2019/20年度の収穫が終了した夏とうもろこしの生産量は、南部のリオグランデドスル州の乾燥による単収の低下により、前年度比0.3%減の25.6百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされ、現在収穫が始まった冬とうもろこしの生産量は、作付面積の増加により前年度より0.8%増の75.0百万トンが見込まれ、合計では100.6百万トンと前年度(100.0百万トン)を上回る見込み。(P.18大豆ーブラジルのクロップカレンダー参照)。

冬とうもろこしの収穫率は7月24日現在で主産地のマトグロッソ州で87%と、収穫が早かった前年度よりは7ポイント遅れている。また、南部のパラナ州の収穫率は7月20日現在で17%となっている。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同じ68.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より11.8%増の38.0百万トンの見込み。輸出シェアは世界第2位を維持。(図参照)。一方、輸入量は1.5百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2020年1～6月の累計輸出量は3.3百万トンで、前年同期比62%減となっている。内訳は、1位が台湾で83万トン、2位が日本で44万トンとなっている。7月以降、冬とうもろこしの収穫の進展に伴い、輸出量が増加するとみられる。

写真：南部パラナ州の

冬とうもろこし風景

(7月6日撮影)

8月下旬収穫予定で順調に生育



とうもろこしーブラジル

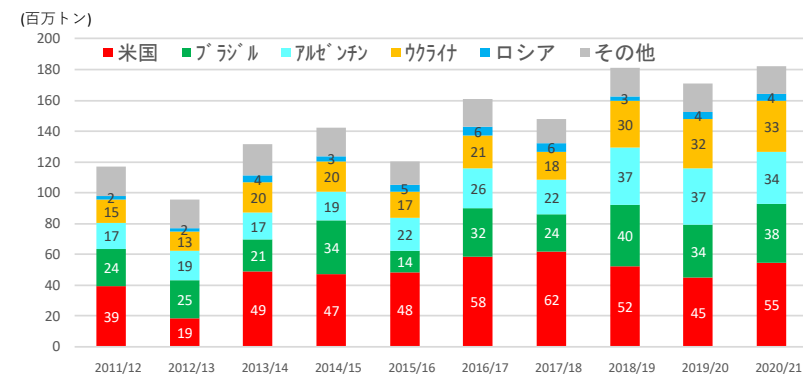
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	101.0	101.0	107.0 (106.3)	-	5.9	
消 費 量	67.0	68.0	68.0 (70.5)	-	-	
うち飼料用	57.0	58.0	58.0 (54.0)	-	-	
輸 出 量	39.7	34.0	38.0 (35.5)	-	11.8	
輸 入 量	1.7	1.2	1.5 (0.8)	-	25.0	
期末在庫量	5.3	5.5	8.0 (5.4)	1.1	45.5	
期末在庫率	5.0%	5.4%	7.5% (5.1%)	1.0	2.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	17.50	18.40	18.90 (18.50)	-	2.7	
単収(t/ha)	5.77	5.49	5.66 (5.75)	-	3.1	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 July 2020)
IGC「Grain Market Report」(25 June 2020)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2020.7.10)のデータをもとに農林水産省にて作成。

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同じ50.0百万トンの見込み。

なお、「ブエノスアイレス穀物取引所週報」(2020.7.24)によれば、収穫率は94.6%。生産量は50.0百万トン(前年度50.6百万トン)の見込み。乾燥した天候により収穫作業は順調に進捗している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より8.1%減の34.0百万トン(前年度38.0百万トン)の見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2020年1～5月の輸出量は15.4百万トンで、前年同期より54%増。内訳は、1位がベトナム3.2百万トン、2位がエジプト1.8百万トン、3位がアルジェリア1.6百万トン。なお、アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月14日、輸出税を約7%から12%へ引き上げた。

< 中国 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前年度より0.3%減の260.0百万トン(前年度261.0百万トン)の見込み。中国国家糧油情報センター(2020.7.3)によれば、6月の産地の天候は良好で、土壌水分量も適当であったため、夏とうもろこしの播種と春とうもろこしの生長に有利であった。7月上旬現在、河南省等の産地の夏とうもろこしは三葉～七葉期に入っている。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、ASFと新型コロナ以前の需要レベルに回復することから前月から1.0百万トン上方修正され、前年度より1.1%増の277.0百万トン(前年度273.0百万トン)の見込み。

【貿易情報・その他】米中通商摩擦の影響から2018年7月から米国産とうもろこし輸入には25%の追加関税が賦課されていたが、中国財政部は、2020年2月18日、輸入業者向けに追加関税の免除措置の手続きを公表した。

中国の貿易統計によれば、2020年1～5月の輸入量は277万トンで、前年同期より16%増。主にウクライナ産260万トン(94%)が占めている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報6月号」によると、国内のとうもろこしの飼料用・加工用需要の増加に伴い、6月の国内流通価格は継続して上昇した。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	51.0	50.0	50.0 (52.1)	-	-
消 費 量	13.8	13.5	15.0 (21.1)	▲ 0.5	11.1
うち飼料用	9.7	9.5	11.0 (16.5)	-	15.8
輸 出 量	37.2	37.0	34.0 (31.0)	-	▲ 8.1
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.4	1.9	2.9 (4.2)	▲ 1.0	54.0
期末在庫率	4.6%	3.7%	5.9% (8.0%)	▲ 2.0	2.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.10	6.20	6.20 (6.90)	-	-
単収(t/ha)	8.36	8.06	8.06 (7.55)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 July 2020)
IGC 「Grain Market Report」(25 June 2020)

とうもろこしー中国

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	257.3	260.8	260.0 (261.0)	-	▲ 0.3
消 費 量	274.0	274.0	277.0 (287.2)	1.0	1.1
うち飼料用	191.0	189.0	190.0 (180.0)	1.0	0.5
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	4.5	7.0	7.0 (7.0)	-	-
期末在庫量	210.3	204.1	194.1 (172.2)	▲ 4.0	▲ 4.9
期末在庫率	76.8%	74.5%	70.0% (60.0%)	▲ 1.7	▲ 4.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	42.13	41.28	42.00 (41.76)	-	1.7
単収(t/ha)	6.11	6.32	6.19 (6.25)	-	▲ 2.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 July 2020)
IGC 「Grain Market Report」(25 June 2020)